西光

第178号
春彼岸号

平成31年
3月5日発行

浄土宗西山禅林寺派
雲龍山　西光寺
住職　大塚靈閑
〒671-0101
兵庫県姫路市大塩町229
Tel 079-254-0351
Fax 079-254-4142

雨上がりの大塩公園にて

春のお彼岸法要

3月21日（木・春分の日）13:00～

13:00～ お彼岸のお勤め
13:30～ 塔婆回向
14:00～ お説教
15:00～ 塔婆回向

※塔婆回向の供養料は1霊300円です。お申し込み頂きました故人お一人ずつ戒名を読み上げ、御詠歌をあげながら供養させて

説教師
山口県宇部市
来迎寺住職　辻田篤信師

靈閑だより

田があれば田に悩み、
家があれば家に悩む。
牛馬などの家畜類や、
金銀・財宝・衣食・器物、
さては召使いに至るまで、
あればあるにつけて、憂え悩む。
（『無量寿経』）

今月の門前掲示板のことばです。時代が違えどなんでも所有すればそれなりの悩みが生ずるのは同じようです。モノだけに限らず召使いという人間にまで言及しているのがミソです。現代ではモノと同じかそれ以上に人間関係に憂い悩んでいる人は多いのではないでしょうか。

この正体は、まさに仏教の最大のテーマである「煩悩」です。つまり欲であったり怒りであったり自分自身を苦しめるものです。大晦日の除夜の鐘は、一〇八あるとされる煩悩を消し去るためといわれますが、鐘をたたいて苦しみが吹き飛べば苦労はしません。煩悩をなくすことはいかなる修行を積もうとも一〇〇％不可能です。生きている限り絶対に無理です。ちなみに煩悩が完全に滅しきれたとしたらそれは悟りの境地で、「涅槃」（ニルヴァーナ）といいますが、これは死を表す言葉でもあります。少し話が難しくなりましたが、要は欲をなくすのは無理だから、せめて欲は少なく、足ることを知りましょう（少欲知足）ということなのだと思います。

近年、終活の一環として、「老前整理」「人生の棚卸し」などと、楽しく充実した残りの人生を送るために不要なモノの見直しをとよくいわれております。

先日テレビで、山のようにある写真を整理して自分の長い人生を一つのアルバムにまとめたという人を特集していました。押し入れの奥底で整理もされず見向きもされなかった写真が一冊のアルバムにまとめられ、すぐ手にとれるところに置かれることで、不思議と度々見るようになったというのです。とはいえ、ほとんどすべての写真を処分して人生を一冊にまとめるというのは至難の業です。学生生活、家族旅行、親戚たちなどとテーマごとだとハードルが少しは低くなりそうです。私も是非やってみようと思います。

しかしやり始めるとその作業の難しいこと。なぜ何年も見もしなかった写真や着もしなかった服やその存在さえ忘れていたものを捨てるのがこんなに難しいのでしょう。もうイヤになります。その原因は明確で、「執着」というやつです。物事にとらわれ、固執することです。この執着という奴は煩悩を作り出す悪い奴としてここかしこに顔をのぞかせます。そのせいで整理が前に進まず困っているのです。しかし、九十九％いらないと思いながら、これは高価なものだからという執着レベルの高いものほど手放せば、スッキリして執着からの解放感が実感できます。

と、ここまで書いてきて、ふとこんな文言が頭をよぎりました。

墓あれば墓に悩み、
仏壇あれば仏壇に悩む。
お葬式・法事・先祖・神仏、
さては坊主に至るまで、
あればあるにつけて、憂い悩む。

真っ先に事業仕分けの対象とされているのは実はこの私自身だったのかもしれません。あなおそろしや。

西光寺歴代住職のお墓のこと

最近墓地で墓を動かしたり重機が出たり入ったり、「一体何をしているんだ?」と思われたかもしれません。実はこの度、先代の三回忌を迎え、納骨をするにあたり、歴代住職墓の整備をしておりました。歴代墓周辺のお墓にお参りの皆さまには墓石や重機が墓参りの妨げになったものと思われます。ご不便をおかけ致しましたこと、お詫び申し上げます。

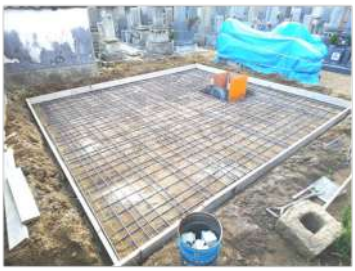
今までの住職は基本的に一人につき一体の墓を構えておりました。しかし住職の墓の区画も場所に限りはあり、今後一体ずつ増やしていくのは物理的に難しく、またその度にお墓を作ると費用もかかります。そこで先代以降の住職が今後入っていくお墓をこの度新たに建て、今後の住職は私も含め皆そこへ入っていくという形に変えさせて頂きました。

昨年五月の総代世話人会におきましてこの件を発議させて頂き、ご承認頂きました。まずは工事の前に、歴代の住職の魂にしばしの間おいとま頂かねばなりません。十二月に三日間かけて計十六体の墓のお性根抜きを一体ずつさせて頂きました(寒かった!長かった!)。工事は年が明けた一月から始まり、もうまもなく完成する予定です。

山門を入ってすぐ左にある鐘楼の南側一帯が西光寺の歴代住職の墓地です。僧侶の墓は通常の四角いお墓ではなく、少し丸みをおびた墓なので分かりやすいです。皆様がこれをお読みの頃には出来上がっておりますので、お墓参りの際にでもどうぞご自由にご覧いただければと思います。次号でその全貌と開眼・納骨のご報告を併せていたします。

以前の歴代住職墓

基礎・敷石をするため一旦墓を撤去する


基礎の工事

納骨供養塔のこと

本堂南側に平成二十三年に建てました納骨供養塔ですが、以前ご案内させて頂いたものから規約の変更がありますので、この度改めて要点のみご案内させて頂きます。詳しくは寺まで。

【納骨料】一霊につき十五万円

納骨時の回向料も含みます。

【霊標】一霊につき五万円

・霊標は任意です。
・記載内容は戒名、没年月日、俗名です。
・霊標は納骨順に設置します。設置場所の指定や予約はできません。

【墓じまいをご検討の方】

ご先祖のお骨を納骨供養塔に移動させて納骨して頂けます。その場合の納骨料は二十万円となります。ただし「〇〇家先祖代々之霊」の霊標はご利用頂けません。お骨はまとめて同所地下へ収骨します。個別に霊標をお作りになる場合は右記の通り、霊標分の納骨料が必要です。

気になる・・

「魂を入れる・抜く」という話について

今回は「魂を入れる＝開眼」「魂を抜く＝撥遣」についてです。

ご本尊(仏壇)・位牌・お墓など拝む対象となるものにはお性根を入れる必要があります。性根は「性根がはいっとらんのちゃうか」のあの性根です。この場合は気合や根性の意味合いですが、仏教でいう性根は拝む対象に入れる魂といえます。お性根を入れないとご本尊の仏さまはただの工作物、美術品です。お墓もただの石です。それに魂を宿らせ、霊験ある尊像に生まれ変わらせる儀式が開眼法要・開眼供養またはお性根入れというものです。仏壇開眼の時に赤蝋燭や紅白ののし袋を使いますが、これは自宅に仏さまをお祀りするのは慶ばしいことであり、祝い事であるためです。

自分でご本尊を作ろうという方はあまりいらっしゃらないかもしれませんが、自ら手彫りで彫った仏像、またはどなたかに画いてもらった仏画や軸を自分の家のご本尊としようとするのも問題ありません。何もお店で買ったものしかだめということはありません。拝もうするものにお性根を入れればそれは立派なご本尊になります。ただし仏さまはたくさんいらっしゃって、浄土宗のご本尊は阿弥陀仏という仏さまです。同じ阿弥陀仏でもいかだのような形をした後光が後ろについているものです(舟形光背)。浄土真宗のご本尊も阿弥陀仏ですが、後光が放射状になっているので、お間違いなく。

開眼といえばダルマが馴染みがあると思います。願いを込めて片目を書き、願いが成就した際にもう片目を書き入れるというものです。

浄土宗を開かれた法然上人曰く「開眼とは、本体は仏師が眼を入れて開く。これを事の開眼という。次に僧が仏眼の真言を以て眼を開き、大日の真言を以て仏の一切の功徳を成就することを理の開眼という」。眼は購入した際に既に入れられておりますので、我々僧侶が行っているのは理の開眼ということになります。

ちなみに仏壇開眼といいますが、正確にはご本尊の開眼といった方が正確かもしれません。仏壇は極楽のお浄土を表しており、そこに主である仏さま(ご本尊の阿弥陀仏)やそこの住人であるご先祖が位牌という形でいらっしゃいます。仏壇はあくまでハコですので、お性根を入れる対象はご本尊や位牌ということです。もちろん仏壇開眼の際はそこを清浄な場所にするためのお浄めの作法は合わせて行っております。

次に、難しい字ですが撥遣という儀式はつまりお性根抜きです。開眼の反対です。撥遣とは「遣る」という言葉の通り「送り届ける」のです。撥遣は一度お招きした霊・魂を一旦極楽界の元いた場所にお帰り頂く儀式です。つまり魂を抜き、もう一度ただの木片や石に戻すのです。ではどんな時に必要かと言うと、㊀仏壇や墓を処分する時　㊁お墓や位牌に追加で戒名等を彫る時　㊂仏壇をお洗濯(仏壇屋さんにきれいにしてもらうこと)に出す時です。つまり仏さま・位牌・お墓など魂が入っているものに何らかの手を加える時です。感覚的には、我々人間が手術を受ける時、麻酔をするようなものです。麻酔なしでメスを入れられたら大変です。㊁㊂の場合は再度魂にこちらに帰ってきてもらわねばなりませんので、修補完了の時にはお性根入れ、開眼が必要です。

よく聞かれることではありますが、㊀墓とは別に横に戒名板を立ててありそこに戒名等を彫る時　㊁仏壇を別の場所に移動させる時　は西光寺ではお性根を抜いておりません。(㊁については場合によっては一旦撥遣をする場合もあります。)これは宗派や地域性ではなくお寺によって違いますので、実家や親戚の方の場合は菩提寺に確認してください。結局仏さまや墓、位牌本体に手を入れるかどうかの基準でいくと、墓の隣に立てている戒名板はある意味看板のようなものですし、引っ越しの場合もご本尊や位牌に手を加えられることはないのでお性根を抜いておりません。最近の仏壇は小型のものが多く家の中での模様替えで仏壇を動かすこともあろうかと思いますが、その際ももちろんお性根抜きは不要です。

「なんかめんどくせぇな」と思わずにどうか「へぇ～そうなんだ」と思ってください(笑)

お供えしたご飯をどうするか問題

表題の件、皆様それぞれに対処法をお持ちだと思います。今の時期なんかお仏飯を下げそびれるとかちんこちんになってしまって食べられたもんじゃない、いやその前に線香臭いなとポイと捨てていらっしゃる方もいるでしょう。確かにそのままレンジでチンしてもやはり硬さが気になるので、我が家ではとりあえず冷凍しておきます。そして鍋の後の雑炊に投入したり、まとめて蒸すのが定番ですが、もう一つ個人的に好きなのはおかゆです。本山で修行中に朝ご飯に毎日作るおかゆがあるのですが、簡単なのでそれを家でも好んで作っています。

㊀ 鍋に冷凍しておいたお仏飯と適量の水を入れ火にかけおかゆを作る。

㊁ 同時並行でおかゆにかける餡を作る。ダシパックで出汁をとり、しょうゆをたらす。水溶き片栗粉でとろみをつける。

㊂ おかゆをもり、餡を上からかけ、最後に擦ったショウガをトッピングする。ショウガもすって平らにして冷凍しておくと便利。

本山では付け合わせにたくあんと塩昆布がつきます。ちなみにたくあんには重要な役割があって、修行中は一片の食べ残しもないよう、食べ終わった後に全ての食器をお茶とたくあんできれいにお掃除していくため、たくあんが必要なのであります。誤ってたくあんを食べてしまうと大変です。平謝りして隣の人に少し譲ってもらうしかありません(笑)。

冬はもう終わりを迎えますが、寒い朝には身も心も温まる一品であります。五分くらいで簡単にできます。どうぞお試しあれ。

【西光寺役員の去就】

【退任】

宮本丁　男性世話人　浅田賢一さん

平成17年より宮本丁の世話人をお務め頂いておりました浅田賢一さんが退任されることになりました。両彼岸や十夜、盆施餓鬼などの定例法要に加え、善導忌や晋山式など、様々な行事などでお力を頂戴いたしました。長らくの間、西光寺の護持運営にご尽力頂き、誠にありがとうございました。

【ご逝去の報】

慎んでお悔み申し上げます。
生前の温顔を偲びつつ、お十念を捧げます。

西ノ丁	井神享宏さん（57歳）	11月17日没
宮本丁	増成美津男さん(88歳)	11月22日没
宮本丁	宮脇晴吉さん（94歳）	11月28日没
中ノ丁	須浦清一さん（95歳）	12月 2日没
広　畑	瀬田美奈子さん(86歳)	12月 3日没
東ノ丁	藤本一夫さん(87歳)	12月 5日没
曽　根	天野春市さん（101歳）	12月 9日没
神　戸	寺浦恵美子さん(100歳)	12月15日没
福　泊	岡本隆男さん(77歳)	12月18日没
中ノ丁	高橋恵美子さん(76歳)	1月 4日没
東ノ丁	大濱紀之さん(77歳)	1月 5日没
神　戸	三浦康彦さん(74歳)	1月20日没
宮本丁	湯谷たづ子さん(102歳)	1月21日没
荒　井	石原将年さん(76歳)	1月26日没
明　石	西村美枝子さん(73歳)	1月31日没
夢　前	梶原正信さん(72歳)	2月 5日没
東ノ丁	山地萬里子さん(90歳)	2月17日没

寺子屋

【今後の予定】

3月13日(水)　4月16日(火)
5月8日(水)
※花まつりのお勤めもします。
甘茶もご用意しています。
6月18日(火)　7月29日(月)

※ いずれの日も午後1時半～午後3時

門前掲示板より

12月
悲しみは分け合い　喜びは独り占めせず
1月
敬頌新禧
2月
眠れない夜を　嘆く者は多いが
目覚めた朝に　感謝する者は少ない
3月
田があれば田に悩み、家があれば家に悩む。
牛馬などの家畜類や、金銀・財宝・衣食・器物、
さては召使いに至るまで、
あればあるにつけて、憂え悩む。(『無量寿経』)

後記

この度のお彼岸のお説教師さんは山口県からはるばるお越し下さいます。辻田師のお寺、来迎寺さんは保育園もなさっていて、卒園シーズンの忙しい中、この度お時間を頂戴いたしました。西光寺には初めてお説教にお出で頂きます。段々と暖かくなってきましたので、どうぞ皆さまお誘いわせてお参り下さい。